

読み聞かせを利用した児童の環境意識形成

中川 寛樹（学生コース）

1 はじめに

近年問題視されている児童の活字離れに対して、読書の推進の一躍を担う「読み聞かせ」の教育的効果に注目し、この「読み聞かせ」という活動を環境教育の場面にも利用できるのではないかと考えた。それも環境問題の理論を説明した資料を読んで聞かせるというのではなく、一つのテーマを据えて事実やお話を紹介し、身近にある類似した事象に置き換えていくという展開をすることで小学校低学年の児童でも環境問題を考えることができるのではないかと。環境問題の内容全般を読み聞かせだけで理解させることは難しいかもしれないが、学習の導入に児童を引きつける手立てとして「読み聞かせ」を取り入れ実践してみたいと考えた。

本研究では、読書の推進と環境意識の啓発をめざして、授業実践を試みた。「読み聞かせ」を取り入れた環境教育の一授業を考案して小学3年生の学級で実践し、環境教育の中での読み聞かせによる手法の効果と教育的意義を見出すことを目的とした。

2 研究の方法

○小学校における授業実践

対象：滋賀大学教育学部附属小学校 第3学年の一学級 児童数40名（男子20名、女子20名）

科目：道徳

授業は絵本の読み聞かせとその他の資料を取り入れて平成22年9月8日、14日に実施した。また授業前と授業後に質問紙法調査を実施して児童の変化を捉え、環境問題に対する児童の認識がどのように変わっていくかを追跡した。

3 授業実践の結果と考察

授業展開では、湖沼の汚染の大きな問題の一つとしてゴミ問題を取り上げ、課題と解決策を考えさせた。その結果、ゴミの問題を中心に意見が出たが、同時に水の利用や食物の大切さ、農薬の問題にまで触れてくれる児童もいた。学級の全員がそれぞれの項目を自分のものとして解釈するところまでは至れなかったが、児童が環境問題に高い関心をもっていることがわかった。読み聞かせを中心とする授業で、小学3年生の児童にも「環境意識」を芽生えさせる効果があることを実証することができた。

質問紙法調査の結果、びわ湖が好きな児童は授業前67%から授業後80%へと増加していた。このことから、読み聞かせによる子どもたちへの問題の投げかけによって、環境意識が芽生えるきっかけとなっていることがわかった。

またびわ湖でくらす生きものへの関心を記入数で捉えた結果、授業を通して6こ以上記入できた児童は18%から46%にまで伸びていた。また何も記入できなかった児童は13%から2%に減少していた。記入事項について見てみると、びわ湖の中に棲む魚類が中心に挙げられていたものが、授業を通して鳥類や人間、びわ湖の水を利用して育てられる作物にまで言及し、視野が広がっていることが確認できた。このことから、読み聞かせによる環境教育にも大きな効果があることを実証することができた。